

# 国東市学力向上アクションプラン(令和2年度版)

平成31年(令和元年)度

## 1 平成31年(令和元年)度の学力の状況

### ① 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果(平均正答率)

教科	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
国東市	64	69	76	60	57
大分県	67	67	74	61	55
全国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0

### ② 平成31年度大分県学力定着状況調査結果(偏差値)

教科	国語		算数		理科	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
国東市	53.4	52.5	56.6	54.9	53.7	53.0
大分県	52.1	51.6	52.2	52.1	52.2	51.3

※大分県は市町村立学校の数値

教科	国語		社会		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
国東市	50.2	50.0	49.8	50.0	50.1	49.4	50.7	49.9	51.0	50.1
大分県	51.8	50.5	50.5	50.3	50.7	50.6	50.9	50.5	50.3	50.3

## 2 平成31年(令和元年)度の目標及び指標・達成状況

### 【目標】

- 1 国東市学力調査において、全国平均以上(偏差値50以上)の項目を小学校20/30項目、中学校17/20を達成する。
- 2 管理職、主要主任、指導教諭等を中心として各学校の課題に応じた主体的・組織的な授業改善を推進する。

達成指標	取組指標	達成率	達成状況
1 国東市学力調査において小学校は30/30、中学校は17/20項目を達成する。 【H30小学校 28/30 中学校 16/20】	1 年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、要請訪問時にもその点について点検し、取組の徹底を図る。 2 管理職授業研究協議会を年間5回実施し、管理職の指導力を向上させ、校内における授業改善の日常化を強化する。	S~C	学力調査の結果は未確認
2-1 学校評価の4点セットの学力に関する重点目標の全ての項目の達成状況A以上の学校を50%以上。 (授業改善の目標を必ず含む) 【H29年度 3学期評価においてすべてA以上2/15】	3 小学校外国語教育の研修を全5コース設定し、すべての小学校教諭がそのいずれかを選択し、研修を行うことで、指導力向上を図る。 4 学力向上支援教員をより一層活用し、所属校での活用はもとより、校内研修に必ず招聘し、研修の講師を務める等、従前より指導的な役割を与える。 5 教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。	達成率 未確認	2学期末の評価で達成状況を把握したい
2-2 学校教育基本計画の「学力向上の推進」における達成目標の「管理職および主要主任等による授業観察及びキャリアステージに応じた適切な指導」について、学校の自己評価及び指導主事の評価(要請訪問時)がA以上である学校の割合100%。	6 教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードの質の向上を図る。	達成率 100%	小学校 11/11 (100%) 中学校 4/4 (100%) →学校自己評価

## 3 平成31年(令和元年)度の人的支援の効果

### 【学力向上支援教員】

中学校英語  
・生徒の変化:英語が好きになり、学習に対する意欲が向上した。英語のコミュニケーションに主体的に取り組む、楽しむことができた。  
・教員の変化:公開授業を通して、英語を聞く・話す・書く機会を多く取り入れることの必要性に気付くことができた。また言語材料への理解を中心とした活動から伝え合う内容を重視した指導への転換を意識して実践するようになってきた。3回の公開授業にのべ32名が参加した。

### 【習熟度別指導推進教員】

中学校数学  
・生徒の変化:習熟に応じた課題や手立てが講じられることにより、授業に集中できにくかった生徒が集中して参加するようになった。また、ペアやグループで表現することの良さに気付く、積極的に取り組む姿が見られる。  
・教員の変化:公開授業を通して、教師主導の講義型から生徒主体の思考・表現型のよさに気付かされて、ペアやグループの学習を効果的に取り入れる教員が増えた。また、個に応じた効果的な支援についても学ぶことができており、指導案にも適切に標記できる教員が増えた。3回の公開授業にのべ16名が参加した。  
中学校英語  
・生徒の変化:既習事項の復習も授業で扱うので、未定着な内容を振り返ることができ、さらに英語で表現する機会も増え、基礎基本の定着につながった。  
・教員の変化:公開授業を通して、英語が苦手な生徒でも意欲的に表現活動に取り組めるような場面の設定を習熟の程度に応じて行うことの必要性が共通理解できた。3回の公開授業にのべ20名が参加した。

### 【小学校教科担任制推進教員】 ※該当する自治体のみ記載

児童の変化  
・なかなか学習に意欲的に取り組めなかった児童も、集中して取り組むことができるようになってきている。  
・困ったことがあったときに担任以外にも相談できる先生がいることが安心感につながっている。  
教員の変化  
・教科を絞って教材研究をすることで教科内の系統性を理解し、指導に生かすことができた。  
・学年部内の情報交換が活発になり、多角的に子ども理解を深めることができた。

## 5 今年度中にやるべきこと(令和2年1月~3月間の取組)

- ・12月に実施した国東市学力調査の結果に基づき、正答率の低い問題や目標値に到達していない問題の復習を行う計画を立て、Web支援システム及び問題データベースを活用して実施する。管理職及び教務主任は、その進捗を管理し、本年度の学習内容の確実な定着を図る。3月9日までに、取組の進捗状況を市教委へ報告する。
- ・国東市学力調査の説明会を行い、Web支援システムの活用方法について研修し、各校での指導に生かすようにする。
- ・くにさき地区教育研究会の教科部会においてこれまで作成したフォローアップシート(大分県学力調査・全国学力調査において正答率が低かった問題の類似問題)を活用し、苦手問題の克服を図る。

## 6 令和2年度の目標及び指標

### 【目標】

- 1 国東市学力調査力において、全国平均以上(偏差値50以上)の項目を小学校30/30項目、中学校17/20を達成する。
- 2 管理職、主要主任、指導教諭等を中心として各学校の課題に応じた主体的・組織的な授業改善を推進する。

令和2年度

達成指標	取組指標
1-1 国東市学力調査において小学校は、30/30中学校は、17/20項目を達成する。 【R01小学校 /30 中学校 /20】	1 授業改善の日常化を強化するために、年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、校長会で確認したり教務主任会や研究主任会で演習を行ったりする。また、取組の徹底を図るために、要請訪問時にもその点について点検する。 2 外国語教育の指導力向上を図るために、小学校外国語教育の研修を全5コース設定し、すべての小学校教諭がそのいずれかを選択し、研修を行う。また、中学校英語科教員は小学校とのつながりを授業改善に生かすために、市が主催する小学校外国語教育研修会あるいは小学校外国語(活動)の公開授業に1回は参加する。
1-2 国東市学力調査において正答率が5割未満の児童の出現率5%以下の教科を10/15以上に、正答率が5割未満の生徒の出現率30%以下の教科を6/10以上にする。 【H30小学校6/15、中学校3/10】	3 授業力向上アドバイザーが拠点校及び訪問校のステップアップ研修対象者及び20代、30代の教員(臨時講師、非常勤講師を含む)の授業力向上の支援を定期的に行う。
2 学校評価の4点セットの学力に関する重点目標の全ての項目の達成状況A以上の学校を50%以上。 (授業改善の目標を必ず含む) 【H30年度 3学期評価においてすべてA以上7/15】	4 教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。 5 教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小・中学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ役割を担い、新大分スタンダードの質の向上を図る。

## 7 令和2年度の行動計画

①「新大分スタンダード」に基づく組織的な授業改善の推進と授業の質の向上 ○年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、要請訪問時にもその点について点検し、取組の徹底を図る。 ・付きたい力を意識した密度の濃い授業を目指すための「めあて・課題・まとめ・振り返り」の質の向上・主体的・対話的で深い学びを実現するため、子どもたちが見通しを持ち、他者との関わりの中で自らの考えを広げ深める展開を重視した授業改善を図る。 ○授業力向上アドバイザーが拠点校及び訪問校のステップアップ研修対象者及び20代、30代の教員(臨時講師、非常勤講師を含む)の授業力向上の支援を定期的に行う。【新】 ・週3日は訪問校において支援を行う。 ・必要に応じてその他の教職員にも支援を行う。 ○教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。 ○教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ役割を担い、新大分スタンダードの質の向上を図る。	③小学校教科担任制の推進 【推進指定校及び学年】 ○国東小学校の5・6年生、安岐中央小学校の4・5・6年生、安岐小学校の4・5・6年生 【実施教科】 ○国語、社会、算数、理科を中心に実施し、その他の教科については、学校ごとに年度当初に定める。 【指定校での取組】 ○年間1回、公開授業及び実践発表会を行う。 ○児童や保護者に学期ごとにアンケートを行い、課題点を改善につなげる。【新】 ○学校運営協議会等で取組を地域にも発信し、理解を広げる。【新】 【効果測定】 ○国東市学力調査(12月実施) ○アンケートにより教科への愛着度や理解度の伸びを検証する。 【市教委での取組】 ○市教委と推進教員による連絡協議会を年間4回開催する。 ○教務主任会において取組の発表を行い、取組の推進を図る。 ○学習支援教員の配置校において、一部教科の交換授業を推進する。【新】 ○年度末に教科担任制の拡充に向け取り組み事例を作成する。
②「中学校学力向上対策3つの提言」の更なる強化 ○学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底 ア 生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業を充実させるとともに、習熟度別指導を積極的に導入する。 イ 教科の壁を越え、全ての教科に共通した授業改善の取組内容を設定し、その視点に基づく互見授業・授業研究を実施する。 ○学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築 ア くにさき地区教育研究会の教科部会を年間4回実施し、児童生徒の課題解決のための研究を進めたり、授業研究会を実施したりして、教科指導力の向上を図る。 イ 国東市中学校教科研修協議会を年間3回以上実施し、活用問題の交流をしたり、先輩が後輩に対して効果的な指導方法等を引き継いだりして、教科指導力の向上を図る。 ○「生徒と共に創る授業」の推進 ア 各学校が教育課題に即したアンケートを作成し、毎学期末実施することで、生徒の声を授業に反映させる。 ウ 学校が目指す授業像を生徒と共有し、それに向かう学習集団としての目標を設定させ、適宜振り返り活動を行う。 ○その他 総合的な学習の時間に、世界農業遺産について探求的・協働的に学習しふるさとのすばらしさに触れ、「教育の里づくりの集い」において学んだことを発信する機会を設け、思考力・判断力・表現力を育む取組とする。	④中学校英語科の授業改善の推進 ○小中の連携を深め、小学校の取組を授業改善に生かすため、中学校英語科教員は市が主催する小学校外国語教育研修会あるいは小学校外国語(活動)の公開授業に1回は参加する。 ア 小学校の教科書や教材について理解を深める。 イ 小学校の外国語教育が重視していることを知り、小・中のギャップをなくす。 ウ それぞれの学校の困りについて助言をしよう。 ○2年生と3年生を対象にGTECを実施し、4技能の習熟の状況を客観的に把握するとともに、課題となる技能については日常の授業で意識的に活動を取り入れるようにする。 ア 事前と事後の研修会を行い、検定結果を有効活用できるようにする。 イ 検定結果より、授業で伸ばされたいない技能を把握し、意識的に授業改善につなげる。 ○くにさき地区研及び中学校教科研修協議会において、日頃の実践を交流するとともに、参加した研修の還流報告を行う。 ア 市外を含めた小学校や高校の授業研究会にも積極的に参加し、内容を還流する。 ○習熟度別指導推進教員(英語科)の公開授業で、習熟の程度に応じた指導の在り方についてだけでなく、表現することを中心に据えた授業のあり方やICTの活用の仕方、ALTとの連携等について協議を深める。

## 8 令和2年度の人的支援の希望人数

授業力向上アドバイザー	習熟度別指導推進教員	教科担任制推進教員	市町村独自の人的・物的支援
小学校 人 中学校 人	数学 人 外国語 人	小学校 人	人的支援 ・学習支援教員(市費雇用教員) 8名(未確定) 物的支援 ・国東市学力調査及びWeb評価支援システム ・eライブラリ ・Hyper-QU~全中学生、全小学5・6年生に実施 ・GTEC(中2、3) ・小学校外国語教材 ・プログラミング教材